

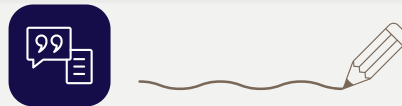


「歯科医院」 の研究

発展の条件

PART IV
未来展望

高田健治



日本の経済的衰退が誰の目にも明らかとなりつつある。総人口は2070年に現在（1億2,600万人）の7割（8,700万人）まで減少し、65歳以上人口が4割を占める。人の不足という問題は、患者絶対数の減少を意味する。

日本で現在、どれくらいの国民が「開業歯科医はこの先、食べていけるか」を心配しているのか。その答えは、当事者（とその家族）を除いて、『別に、誰も』であろう。

多くの人にとって、歯科医院はないと困るが、コンビニより少ないと困るという声は、あまり聞かない。患者から真に必要なとされる歯科医院だけがあれば、患者は満足する。

歯科医院・歯科医師過剰の時代がやってくる。非婚・少子化に伴う日本社会の構造変化にうまく適応できず、超減収・倒産・廃業となる歯科医院は、今後増えるであろう。

（「はじめに」より一部抜粋）



Table of Contents

Chapter 9

Chapter 8

8.1 人口減のインパクト

- 8.1.1 人口減は自分ごと
- 8.1.2 これまでの1500年
- 8.1.3 これからの50年

8.2 開業歯科の「人口」問題

- 8.2.1 歯科医業の現在地
- 8.2.2 人の問題と対処法
 - 歯科医師過剰時代の課題ー立地
 - 歯科医師過剰時代の課題ー人手不足

8.3 事業モデルを点検する

- 8.3.1 保険診療 VS. 自由診療
- 8.3.2 事業成功への「手がかかり」
- 8.3.3 開院か承継か
 - スタッフからみた経営者の年齢

9.1 そこまで来た明日

- 9.1.1 M2Cビジネスモデル
- 9.1.2 スタッフは高学歴化している
- 9.2 待っている明日
 - 9.2.1 リフレーミング
 - 9.2.2 協業する未来
 - 9.2.3 歯科衛生士・事務スタッフとの協業
 - 「デンタルエステ」

9.3 立地診断2050

Appendices

- APPENDIX 1 一人当たり名目GNI
- APPENDIX 2 日本の将来推計人口(令和5年推計)
- APPENDIX 3 日本のできごと1965-2010
- APPENDIX 4 15～64歳人口の年次間変化2020年～2070年
- APPENDIX 5 歯科医院1件当たりの就業人口（潜在患者数）
- APPENDIX 6 「ロコミ」が頼りになる根拠
- APPENDIX 7 効率よく仕事を進めたい時の人数

「歯科医院の研究」-発展の条件-

PARTIVは、人口減少と歯科医過剰などの問題が多い中、歯科医院経営の危機に備えるための指針を示す教材です。信用できる数字から現実を伝え、そして未来を見据え、事実を受け止めた上での経営戦略を解説します。歯科医師がこれからを生き残るためのヒントが詰まった一冊です。